

契約書レビューにパートナーとなるAIを。

株式会社 LegalForce について

株式会社 LegalForce は、リーガルテックの会社です。現在はビジネスのあらゆる場面で行われている「契約」に焦点を当て、契約書のレビューや作成を支援するシステム「LegalForce」を開発しています。

LegalForce は「契約書自動検査機能」、「条文検索機能」、「類似契約書推薦・比較機能」を搭載しています。これらの機能を画面と合わせて紹介します。

契約書レビュー支援システム「LegalForce」

6件のアラート × 8件の抜け落ち

契約類型: 秘密保持契約 | 立場: 受領側

秘密情報の返還
第4条 (秘密情報の返還)
乙は、本契約終了後又は甲から要請があったときは、開示、提供された秘密情報のうち原本が返還可能なものについてはその原本及び複製物の一切を、原本が返還不能なものについてはその複製物の一切を、速やかに甲に返還しなければならない。原本及び複製物の返還が不能なものについては、甲の承諾を得て廃棄、消去等必要な措置を講じ、その旨を証する書面を提出しなければならない。

要反映
秘密情報の処分又は返却の際、廃棄証明書の発行が義務付けられていますが問題ありませんか？

要確認
開示者の請求により秘密情報の使用差止めを請求できる旨定められていますが、これを削除する必要はありませんか？

修正文例
修正の方針: 廃棄証明書の発行を義務を定める条項部分を削除する。

修正文例
修正の方針: 差止めについて定める条項部分を削除する。

契約書ファイルをアップロードし、契約書の種類（類型）や自社の立場を入力すると、わずか1秒で不利な条文や欠落条項を指摘します。

契約書条文検索機能

検索キーワードを細かく指定するには

すべて | 社内ライブラリ | LegalForceライブラリ

秘密情報
1. 甲及び乙は、本契約の履行に關し、相手方の責に歸すべき事由により開示を被った場合、相手方に対して、開示に被った通常かつ直接の開示を請求することができる。
2. 前項の開示請求の原稿総額は、債務不履行、法律上の瑕疵担保責任、不当利得、不法行為その他請求原因のいかなにかかわらず、委託料相当額を限度とする。

秘密情報
当社は、本契約書に違反したことにより貴大学に開示を与えた場合、その開示を撤回します。

秘密情報
乙は、本契約表明の違反により甲に開示を与えたときは、甲が被った一切の開示を撤回するを負うものとする。

- ・ 契約書をレビュー・作成をしていると、過去の契約書を参照するケースが多くありますが、現状は探すのに時間がかかっています。
- ・ 検索キーワード（例：条タイトル、契約書名）を入力すると、関連する条文を検索・表示します。

類似契約書推薦・比較機能

似ている契約書

NDAひな形3 (投資家向け) .docx
最終更新日時: 2018/11/30 04:17

NDAひな形1 (一方開示) .docx
最終更新日時: 2018/11/30 04:17

【ZeLo_Model】秘密保持契約_一方開示_開示側有利.docx
サイズ: 21.7 KB (22,187 バイト)
最終更新日時: 2019/03/26 16:07

似ている契約書との差分をハイライトしています。

似ている契約書
秘密保持契約_相手方有利.docx
最終更新日時: 2019/03/26 16:06

似ている契約書
秘密保持契約_相手方有利.docx
最終更新日時: 2019/03/26 16:06

- ・ 何度も契約をしている会社とは過去に締結した契約書との差分を確認するだけで良い場合があります。
- ・ 類似契約書を推薦し、差分を取ることが可能です。

Word アドイン

自動保存 | 秘密保持契約_取引先向け開示_このPCに保存済み

LegalForce

第4条 (秘密情報の返還)
秘密情報の処分又は返却の際、廃棄証明書の発行が義務付けられていますが問題ありませんか？

第5条 (救済手段)
開示者の請求により秘密情報の使用差止めを請求できる旨定められていますが、これを削除する必要はありませんか？

- ・ 法務では通常Microsoft Wordを用いて契約書を作成します。Microsoft Word から検査や検索機能を機能を利用することが可能です。



LegalForce の3つの開発組織

LegalForce の開発では3つの組織が一つとなって開発を進めています。

LegalForce
Design & Development
製品開発



LegalForce
Research & Development
研究開発



LegalForce
Practice Development
法務開発



CTO 直轄のもと、エンジニアとデザイナーが共創するチーム。ユーザーが触れるクライアントサイドとそれに付随するサーバーサイドを開発します。UX スタディとビジネス要件を実装可能な仕様に落とし込み、スクラムを導入して短期間での開発サイクルを実践しています。

法務におけるビジネス価値創出を目的に、データの収集や蓄積、分析、可視化など、あらゆるデータに関わる取り組みを行っています。具体的には、データ基盤やアノテーション基盤の構築、自然言語処理や機械学習などを用いた Web API 構築、BI ツール構築、更には論文執筆や学会発表などを通じた技術発信も行います。

全組織で最もユーザーに近く、法務経験者や弁護士を中心としたチームです。ユーザーが LegalForce を用いて真に実務を向上させるための支援と、サービスの開発企画、そして法改正や実務の潮流などに基づく法務知識の収集・更新・管理を担っています。

LegalForce の利用技術・ツール

LegalForce で用いている技術やフレームワーク、ライブラリ、ツールをご紹介します(製品開発と研究開発で使っている技術は異なります)。

プログラミング言語	
フロントエンド関連	
バックエンド関連	
数値計算・解析	
機械学習	
ETL	
DevOps 関連	
ミドルウェア	
クラウド	
監視系	
BI/ログ解析	
コミュニケーション等	

技術顧問

LegalForce では3名の技術顧問の方々を招聘し、それぞれ Ruby 言語、自然言語処理、形式検証技術等に関わる技術支援を頂いています。



まつもと ゆきひろ
(通称: matz)
プログラミング言語 Ruby 開発者
一般財団法人 Ruby アソシエーション 理事長、ほか肩書多数



森 信介
京都大学学術情報メディアセンター
情報学研究所知能情報学専攻兼任



末永 幸平
京都大学大学院情報学研究所
通信情報システム専攻 准教授

エンジニア募集中！！

LegalForce では下記のような職種で募集を行っています。たくさんの応募をお待ちしております。

- ・フロントエンドエンジニア
- ・Python / Ruby バックエンドエンジニア
- ・研究開発エンジニア
- ・自然言語処理エンジニア
- ・インフラエンジニア
- ・SRE/DevOps エンジニア
- ・データ基盤 / 機械学習基盤構築エンジニア



QRコードから
求人の詳細を確認できます。